



・「**データ駆動型**
土づくり事業」が
スタートします！！

・活動紹介
「首都圏土壌医の会」

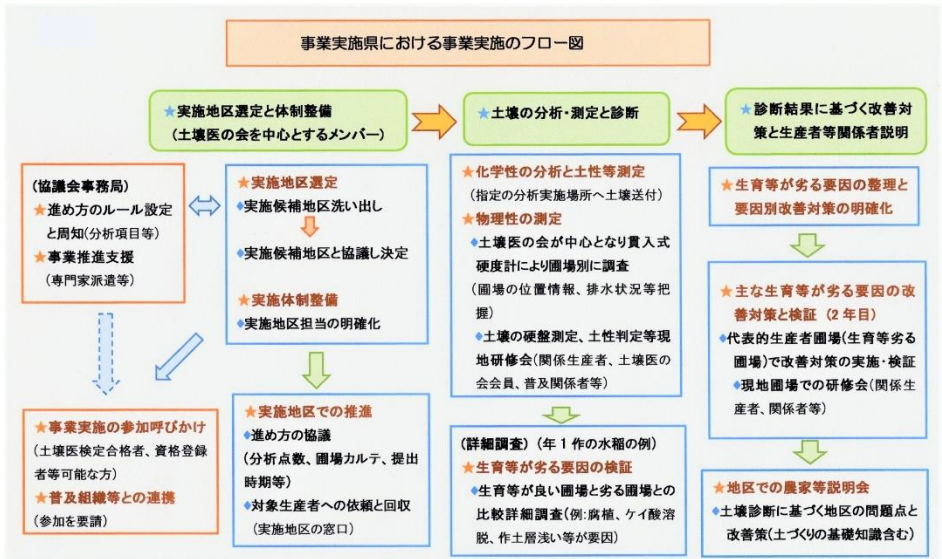
・書籍紹介

・土壌医検定受験体験記

・**2020年度土壌医検定**

データ駆動型土づくり事業
(農林水産省補助事業)
がスタートします！！
土壌医の会の皆様のご協力をお願いします

◆ **データ駆動型土づくり推進事業とは**



・令和2年度より、土づくりを通じ作物生育等の改善を図る「データ駆動型土づくり推進事業」(農林水産省の補助事業)が3か年計画でスタートすることとなりました。

・本事業では全国の主要な産地で土壌診断(化学性と物理性)を行い、作物の生育等が劣る要因を明らかにしてその改善を図ります。全国規模での調査結果はデータベース化して今後の土づくり指導等に活用してまいります。

◆ **事業の実施主体は**

・本事業は(一財)日本土壌協会、土壌医の会全国協議会、(株)NTTデータ、関係県で「土壌診断データベース構築推進協議会」が実施します。実施地区の選定、土壌調査、診断の実施、診断結果に基づく改善の方策は、土壌医の会全国協議会及び(一財)日本土壌協会が中心となって行い、データベース化は(株)NTTデータが対応することとしております。

◆ **事業の進め方と成果の活用は**

- ・事業推進に当たっては、調査結果に基づき産地や農家がメリットを感じられるよう、作物の収量、品質の改善や底上げがなされるよう努めていくこととしております。
- ・具体的には、収量、品質等が良い圃場と劣る圃場とで土壌物理性も含めた比較調査を行い、改善すべき要因を明確にして対策を行い、その結果を評価してデータベース化します。
- ・本事業によって得られたデータベースが活用できるのは原則「土壌診断データベース構築推進協議会」の構成メンバーやデータ提供者としており、データ提供者の個別情報は非公開とします。
- ・また、事業推進に当たっては、土づくりの推進が図れるよう、関係県とも連携して事業を推進するとともに、事業実施地区の関係機関や農家等を対象に研修会、報告会等を実施することとしております。

活動紹介 首都圏土壤医の会 ～市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会～

首都圏土壤医の会には、東京・埼玉・群馬・千葉・神奈川・栃木・茨城・山梨の一都・7県から会員が集まっています。それぞれの得意分野や興味を活かせるよう、市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会、土壌図活用研究部会、簡易土壌分析研究部会、土壌医検定試験対策講習会研究部会が設けられています。今回はその中の「市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会」の活動をご紹介します。

研究部会のテーマ

- 1) 市民農園等小規模圃場の抱える土づくりの問題点の把握と解決策の検討
- 2) 市民農園等小規模圃場の土作りマニュアルの作成とその普及について研究

これまでに家庭菜園、バラ中心の多年草庭園、福祉施設の作業圃場など様々な形態の小規模圃場を訪れ、植物の生育状況と土層の調査、土壌分析を行いました。得られた調査結果をもとに、改善策の提案や相談もしています。右の画像は現地調査の様子と、分析結果例です。調査件数を増やしデータを積み上げ、小規模圃場の抱える土の問題の傾向を把握して、土づくりマニュアルを作成し普及に繋げていきたいと考えています。メンバーの日程調整に苦労しながらも楽しく活動しています。現在、新型コロナウイルス感染防止対策も考えながら、今年度の活動再開を模索中です。

詳しくは土壤医ネットワーク「地域土壤医の会の案内」をご覧ください。

http://www.japan-soil.net/doiken/info_area2020spr.pdf



書籍紹介 「土壌と施肥」 猪股 敏郎 (著)

栽培品目ごとに対応した土作り、施肥管理がわかります。病害や生理障害で困った時などにも役立つ、土作りの手引書です。

■目次

- ◇1章 土壌と施肥の基礎知識 ♣ コラム 堆肥の品質と土壤微生物相改善
- ◇2章 作物別の土壌作り ♣ コラム 野菜に対する竹粉施用の効果
- ◇3章 有機栽培における土作り・施肥 ♣ コラム 有機栽培ホウレンソウの生理障害
- ◇4章 近年の土壌環境や気象変化に対応した土壌管理

～書店でお求めになれます～



「エディブルウェイ」って耳にされたことはありますか？「edible way（食べられる道？）」…千葉県松戸駅から千葉大学までの、およそ1kmの通学路では、家々の前に、食べられる植物が植えられたプランターが並んでいます。千葉大学大学院園芸学研究科木下研究室と地元の住民の皆さんによる「景観改善」と「食料確保」の一石二鳥の取り組みです。この「エディブルウェイ」との出会いが「土との出会い」になったという方を、ご紹介します。

土壤医検定初挑戦で2級に合格された鎌賀さん(会社員)に受験のきっかけや勉強法、合格後の抱負を聞きました。

元々園芸に興味があったわけでもなく、どちらかというと畑作業や土いじりが苦手な私でした。ある時、「エディブルウェイ」に取り組みられている方とお話する機会があり、意識が全く変わりました。「自分もこのような活動にかかわりたい！」、「植物栽培をどう学ぼうか」、そう思い、市民活動サイトを検索して、柏土壤医の会を見つけました。準会員となり、定例会に参加し、土壤の基礎知識を学び、土壤の専門家や農家の方にお話を伺っていくうちに、徐々に土壤について体系的に学びたいと思うようになりました。そして土壤医検定試験に初挑戦。しかし、勉強しようとテキストを開いた途端、壁にぶつかってしまいました。元来理科嫌いの私には、続々とでてくる専門用語が全くイメージできなかったのです。そこでまず、具体的な作物で、生育と養分吸収の過程をイメージしながら、用語を覚え、少しずつ知識を増やしていくことにしました。日本土壤協会のホームページにある「環境・土づくり関連冊子」の図表を使った丁寧な説明がとても参考になりました。土壤医の会の勉強会に積極的に参加し、仕上げとして試験3か月前から既出問題集に取り組みました。試験当日は難易度の高い問題を見て愕然としたのですが、問題演習で鍛え積み重ねた知識を総動員してなんとか回答することができました。合格後は、「土づくりマスター」として資格登録を行い、柏土壤医の会の正会員として綿栽培や野菜作りにも参加しています。これからは、実践を通して自分の経験値を向上させ、「緑豊かなコミュニティづくり」と「土に触れ緑を育てることの楽しさを伝える」活動に役立てていこうと思っています。

2021年度土壤医検定

2021年度土壤医検定のポスターとパンフレットができました。各土壤医の会会長様宛には、例年通り送付させていただく予定です。「土壤医の会経由で入手できない」、または、「興味を持っている仲間に配布したい」など、必要な方は、下記メールアドレスへ、ご連絡・ご相談ください。

全国の土壤医の会の仲間に伝えたいこと、聞きたいこと、その他何でも、みなさまの声を聞かせください。

宛先・・・kouno@japan-soil.net までお願いいたします。

